

【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年七月句会（第一三四回）

兼題 「夏休」

開催日 令和五年七月二十二日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

（五点句）

●行水の絵日記残る夏休み

小牧

選評：小学生の頃、夏休みに絵日記を書けという宿題でもあったのだろう。その中の一枚、行水をしているところの絵日記が出て来た。一日戸外で遊んで汗をかき、夕暮れの庭先で洗濯盤に日向水でも張って、行水を使おうとする。遠い日の郷愁を一気によりみがえらせる句である。

行水と夏休みという季語が二つあるが、夏休みの方が強くて特に問題ないと思う。（夢心記）

●ワグネル（悪愚根蝕）に

漢字当ててる夏の闇 互酬

選評：メデイアの断片的ニュースでしか判らないロシアのウクライナ侵略戦争は、まるで闇の中のようなのだ。わけても、国家と契約している民間軍事会社の叛乱には驚いた。モスクワへの進軍を中止し、ベラルーシへ移行した棟梁であるワグネル氏の思想、信条、行動はその真意が判らず、益々闇が深まった。

作者はこの状況をワグネルに漢字を当て嵌めているが、漢字一字一字の語感がおどろおどろしく、益々闇が深まる感じがする。この句は現在のロウ戦争の事態と夏の闇という季語を上手くリンクしたユニークで面白い句である。（徹心記）

（三点句）

●夏休み学生劇団どさ回り

夢心

選評：夏休み学生劇団どさ回り 作者は劇団所で夏休みには地方公演に参加していたと思われる。私は帰省時に大学のサークルの公演を手伝ったことがある。会場整理、チケット販売など。当時地方ではプロの公演は、ほとんどなかったことなど懐かしく思い出させてくれた句であった。

（小牧記）

●荷を抱えドローン翔ける夏の空

徹心

選評：現在、「ドローン」は、未来の移動手段

としてもつとも期待されている移動体である。その未来志向のドローンは、宅配・ハイヤー・橋梁やトンネルなどへの検査調査などなど、なくてはならない物になると思われます。

作家は鋭い未来志向で、それを俳句の題材に使う。その視界には、夏空に飛び交う未来飛行体がはつきり見えているようである。（互酬記）

●元の木を覆い隠して凌霄花

夢心

選評：景色がすっかり見えることに感心し、木を覆い隠すほどの緑から夏の輝きや旺盛な生命力を受取り、最後の『花』の一字がさし色となり色彩も豊かです。「凌霄花」の読みは「のうぜんか」で花は鮮やかなオレンジ色と教わりました。「のうぜんかずら」と取替えて字余りに読むことで上から下に伸びる蔓の勢いが強まるのでは、とのアイデアが出ました。新しい視点に驚きました。（寿歩記）

（二点句）

夏休み父の歩調のおおらかさ

寿歩

早朝の町内散歩汗水漬く

夢心

窓に生る胡瓜を今朝もぬか床に

寿歩

（一点句）

夏休み八十路の吾に意義薄し

徹心

琴の音と尺八響く暑氣払い

互酬

姫女苑はたらき者の夢の跡

玄鳥

（投句）

あの頃は玉あみ虫取り夏休み

互酬

引退し始終無くなる夏休み

艸寛

ロス五輪ファンファーレ聞く夏休

玄鳥

勝カレー名人喰らふ夏の陣

玄鳥

天に湧き神々おわす滝しずか

寿歩

久方ぶり耳にし彼の地夏豪雨

小牧

緑濃く稲は伸び伸びジュータンに

艸寛

学生時七百日が夏休み

徹心

冷や素麺具材鮮やか映え効果

小牧

百日紅老いた幹にも花見事

艸寛

『句会後記』

相原さんが退会され、総勢七名の会となりました。しかし、句会の内容は豊かなものであり、相原さん不在の寂しさは感じられませんでした。

マイペースで句を作り、自分の感覚で句を味わう。やはり七十を過ぎてからの句は違う味わいがあるのかもしれない。（艸寛記）